

## 2013 年度 第 4 回 鋼構造運営委員会 議事録

- 1 . 日時** 平成 25 年 12 月 9 日(月) 13 時 00 分 ~ 16 時 30 分
- 2 . 場所** 建築会館
- 3 . 出席者** 多田元英, 井戸田秀樹, 一戸康生, 岡本哲美, 向野聡彦, 河野 守,  
(敬称略) 田川泰久, 竹内 徹, 玉井宏章, 中込忠男, 成原弘之, 西山 功,  
藤澤一善, 藤田正則, 増田浩志, 山田丈富, 宇佐美徹(記録)  
欠席:越智健之, 笠井和彦, 河野昭彦, 木村祥裕, 澤本佳和, 吹田啓一郎,  
寺田岳彦, 中島正愛, 緑川光正

**4 . 配付資料**

- 04-01 2013 年度第 4 回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)  
04-02 2013 年度第 3 回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)  
04-03 2013 年度 第 2 回構造本委員会議案(多田主査)  
04-04 2013 年度 第 2 回鋼構造座屈小委員会議事録(井戸田委員)  
04-05 鋼構造接合小委員会 2013 年度第 2 回議事録(案)(増田委員)  
04-06 鋼構造制振設計指針に関するメモ(緑川委員)  
04-07 鋼構造耐火設計小委員会第 16 回議事録(案)(河野<sup>守</sup>委員)  
04-08 鋼構造環境小委員会 2013 年度第 3 回議事録(藤田委員)  
04-09 第 22 回鋼構造素材小委員会議事録(案)(山田委員)  
04-10 2013 年度鋼構造塑性設計小委員会第 4 回議事録(案)(玉井委員)  
04-11 第 6 回東日本大震災鋼構造被害検討 WG 議事録(案)(緑川委員)  
04-12 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG 2013 年度 第 1 回議事録(案)(田川委員)  
04-13 2014 年度大会 PD 資料(玉井委員)  
04-14 高力ボルト設計施工ガイドブック改定原稿および図表(増田委員)  
04-15 震災報告書 建築編 3 鉄骨造(緑川委員)  
04-16 質疑回答の一覧(井戸田委員)  
04-17 鋼構造運営委員会全体の 2014 年度予算申請額(多田主査)  
04-18 鋼構造運営委員会の活動概要(多田主査)  
04-19 鋼構造関連の規準・指針の編成(多田主査)

**5 . 議事内容**

- (1) 資料 04-02 に基づき前回議事録の確認がなされた .
- (2) 資料 04-03 に基づき多田主査より第 2 , 3 回の構造本委員会について説明がなされた .
- ・ 2013 年度大会(北海道)で, 鋼構造 PD の参加者は 167 人 .
  - ・ 2014 年度大会の鋼構造の PD は例年通り 3 日目の午前 .
  - ・ 2013 年度の小委員会活動成果報告書の提出締切が 2/15(土)であるので, 小委員会主査は対応願います .

- ・ 2015 年学会賞選考委員会委員(論文部会)候補として、宮本裕司先生(振動)と河野昭彦先生(SCCS)を推薦された。
  - ・ 2015 年日本建築学会奨励賞選考委員会委員候補として、久田嘉章先生(工学院大)、松本由香先生(横国大)、田村修次先生(京大)が推薦された。
  - ・ 2014 年度の鋼構造運営委員会の予算は 382 万円(2013 年度 402 万円)になった。講習会による貢献ポイントはなしだが、出版物の貢献ポイントが高い。
  - ・ 2014 年度大会の研究協議会は、兵庫県南部地震から 20 年をテーマに実施する。荷重は振動の中に取り入れることとした。
- (3) 資料 04-04~04-12 に基づき各担当委員より小委員会および WG の報告がなされた。
- 接合小委員会(資料 04-05, 増田委員), 塑性設計小委員会(資料 04-10 玉井委員)
- ・ 特になし。
- 座屈小委員会(資料 04-04, 井戸田委員)
- ・ 改定原稿の執筆は来年度から取り掛かる予定。(井戸田委員)
- 制振小委員会(資料 04-06, 玉井委員)
- ・ 脱稿は 2 月頃になると思う。(玉井委員)
- 耐火設計小委員会(資料 04-07, 河野<sup>守</sup>委員)
- ・ 2014 年度から 3 カ年の計画とし、主査を平島先生に交代する。2016 年度に指針を改定・出版し、その前の 2015 年度大会で PD を実施予定である。
  - ・ 現行指針はルート C(耐火検証法)とルート B の一部に反映されている。
- 環境小委員会(資料 04-08, 藤田委員)
- ・ 12/6 の小委員会では、指針の目次に関して議論した。
  - ・ 改定する指針の本指針の目玉は、”鋼構造のリユースに関する環境評価手法の提案”と”一次設計や二次設計などが可能な構造設計手法の提案”である。
- 素材小委員会(資料 04-09, 山田委員)
- ・ 次年度以降の活動について議論し、2014 年度より見波先生に主査を交代する。
  - ・ 収集したデータ(デジタルデータ)は HP 上からダウンロードできるようにする。公開の対象を会員限定にするか等、検討中。
- 東日本大震災鋼構造被害検討 WG (資料 04-11, 西山委員)
- ・ 報告書の地図はグーグルマップではなく、国土地理院のものを使用する。
  - ・ 報告書の WG 内査読(兼鋼構造運営委員会査読)は終了し、対応中である。
  - ・ シェルは WG 査読が済み、運営委員会査読が 1 月末に終わる。(竹内委員)
  - ・ 最終調整は緑川委員に相談すること。(多田主査)
- 鋼構造関連規準・指針の英文化 WG(資料 04-12, 田川委員)
- ・ 日本では鋼構造規準、塑性設計指針、限界状態設計指針があり、立ち位置も分かりにくい。自由度が高い反面煩雑であるが、今の状態を変えるのは難しい。(田川委員)
  - ・ 海外の設計者が使えるように、立ち位置をまえがきで記述するのが良いのではないか。(竹内委員)
  - ・ 素材は各国で統一の動きがあり、JIS も ISO を見据えている。中国は各種材料を ISO に提案しており、日本も指針の英文化の中で発信してはどうか。(竹内委員)

- ・ 学会は基準法と違うが，アカデミックな部分を示していければいいと思う．
  - ・ 先ずは S 規準について分担を決めて執筆し，必要に応じて再調整する．(田川委員)
- (4) 資料 04-13 に基づき来年度大会 PD の企画について玉井委員より説明がなされた．
- (5) 重点審議として，資料 04-14 に基づき増田委員より高力ボルト設計施工ガイドブック改定原稿について説明がなされた。
- ・ 超高強度ボルトについては，一例に留めて詳細ではなく基本情報のみを記述する．
  - ・ 14T のボルトは滑り試験での断面設定が難しいため，注意喚起を記述のこと．
  - ・ 14T の終局設計は，既往の実験データがあるので，それに基づき記述する．
  - ・ メッキボルトの 12T，六角ボルトの 14T については，記述するかどうか検討する．
  - ・ 摩擦面の薬剤処理はメーカーにより異なるため，一般論で記述する．
  - ・ ブレースのガセットプレートの圧縮時面外変形に対する考え方に関しては接合部設計指針に記述する．
  - ・ 鋼構造運営委員会の査読は 2014 年 2 月からとし，山田委員，向野委員で行う．構造本委員会査読は 2014 年 5 月からとし，脱稿については事務局と相談のこと．
  - ・ 査読原稿は A4 判で作成のこと．
- (6) 重点審議として，資料 04-15 に基づき西山委員より東日本大震災合同調査報告（日本建築学会）建築編 3 鉄骨造建築物について説明がなされた．
- ・ 5.2 節のタイトルは見直しのこと．
  - ・ 津波被害の中に地震被害によるものが見られるが良いか．(藤澤委員)  
差が明確ではないので事実を報告している．取り扱いは WG で検討する．  
解釈は後進に任せることとし，解釈に必要なデータを報告する．(多田主査)
- (7) 資料 04-16 に基づき井戸田委員より学会図書の質疑回答の報告がなされた．
- (8) 資料 04-17 に基づき多田主査より鋼構造運営委員会の予算原案について説明がなされた．
- ・ 小委員会への予算の割り振りは昨年と同様に行う予定である．
  - ・ 詳細については小委員会主査とメールで審議する．
- (9) 資料 04-18 に基づき，多田主査より鋼構造運営委員会の活動概要について説明がなされた．
- (10) 資料 04-19 に基づき，多田主査より鋼構造関連の規準・指針の編成について説明がなされた．
- ・ 各種合成構造設計指針，軽鋼構造設計施工指針は，事務局から重版などの検討依頼があれば，その時に今後の対応考える．
  - ・ 保有耐力計算を対象に，骨組の崩壊系を保証した指針として塑性設計指針を変えられないか．(竹内委員)  
小委員会で検討中であるが，骨組の設計も記述する方針である．(玉井委員)

塑性設計には鉛直も水平もあるので、一度原点に戻って検討してほしい。(西山委員)

## 6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
  - ✓ 第5回運営委員会:座屈小委員会
- ・ 今後の運営委員会の日時、場所は以下の通り。
  - 第5回運営委員会 2014年3月31日(月), 14:00-17:00

(運営委員会後のメール審議により、重点審議の担当小委員会を、来年5月の運営委員会で環境小委員会、7月の運営委員会で耐火設計小委員会、とすることになった。)